

「情報知識学思案… 2」：転章

止観第一研究所 村上 茂三

Some Trial for Making an Expanded Paradigm of Information and Knowledge Science

Shigezo Murakami

Abstract : We have new images of paradigm based on Japanese culture and Asia civilization . Upon these paradigm we are making the tentative specification of “*Data Complex*” which is an expanded concept for Data Base.

1. 研究の目的…新学創生へのひとつの思考実験の提案。

…「お願い」：前報についても多くの御批判を賜り心底より御礼申し上げます。斯くの如き粗論を供しますのも、ひたすら御批判を受け度き一心に御座います。手前勝手ながら御酷評願わしゅう存知ます。合掌

…「思案」：思 あたまと心との会意文字。(藤堂明保先生)

：案 あちこち念をおして考えたこと。(藤堂明保先生)

① 情報知識“新”学…吾人永年の願望！…(設立総会での諸先生方のご熱意に感動)。

※ 設立趣意書 (=当初の原点) により再確認：

『高度情報化社会への**転換期**において…重要な問題点は主として、**入力以前のデータ・知識・情報自体の基本的特性に依ることが、明確に認識されるようになってきた。**……これらの問題の究明や、理論の体系化、その応用に関する学問としての情報知識学の振興を目的とする学会を設立しようとするものである。

学会の業務を次に示す。

1.データ・知識・情報の**本質**に係わる理論、その応用および課題…云々。

2.国際協調・協力…云々。

3.標準化等、個別研究の**枠を越える**…云々。

人類の発展と福祉のために…云々。』…「生きとし生けるもの 全員」への恩返し！

② 2000 年になり、**新世紀科学**としての新学の果たすべき役割も益々重視されて来た。

③ 此の様な**高邁な新学提唱**を目指す限り、相応の**新規真善美“提供姿勢”**を表明することが必要かと思われる。：(難儀なこと！ “…始め、足手頭など唯々疎み…”。)

☆ 藤原譲先生の comment : 「大きい問題です。」…本課題の第一人者である先生から戴いた此のご批評は、恐らく『**大き過ぎる捉え方！**』という suggestion。

…深く厚く感謝。(常時、サグラダファミリアを仰ぎ見る興奮。未完成でも好い。)

唯、価値命題は絶対的ではなく、相対的なものである点に勇気づけられるのみ。

④ 国産新学という未踏障壁に登攀路を仮設したい気持ち。(滑落しても好い。駄目元で挑戦！ 欧米近代科学の誕生は、多くの 挑戦者達の記念碑でもある。吾人は孵化・

培養・揺籃に不慣れだと、縮んでいるのかも知れないと反省しております。その反面、惨敗でも嘲笑われても好い「思い切り」の「或るお遊び」でもあります。）

※A 既存学・学会で間に合うものは、まあ、其方に任せる。（此方でもやる！）

新学会では、既存学会では評価されない課題を掬い取る。例えば科学的検討には懸けられないが、本質的な問題として整理して置かねばならない命題などを究明できる場にこそ仕立て上げ度 存じておりますが。但し、この種の課題は、所謂、理工学的論理には馴染み難く、「全人格的」又は「Philosophical（…必ずしも哲学的とは言えない！）」な性格を有する点が気になる。（既科学大家の失笑の的になる場合も在り得る。）

《既存情報関係学・学会では評価されないものを救い上げる》

※B 現時点での当学会基盤はどちらかと言うと、他に卓越した Seeds 基調というよりは、会員諸賢の先見の問題意識によるところが大である。即ち Needs 指向であり、次世代情報学としての学会新設の意義は重大である。

※C Needs base 新学創成の方法として、『パラダイム変革』を念頭に接近してみる。此处では文化・文明を発想水準とした。国産標榜ゆえ、当然『アジア文化・日本文明』準拠である。然し、近代科学・現代科学”の根底(paradigm)は、欧米原産学術の其れを使わせて貰っている部分が多い。故に、欧米原産学術を否定することなど出来るわけが無い。CLASH するであろうが、御互いに CRUSH されることなど起こらない。否、起こらない路を探るのが新世紀科学の要件と心得る。情報科学分野に於いても西洋医学と漢方医学の様に、双方文化の共生・棲み分け・使い分けが可能である様な発信の仕方を 是から 探っていく。

☆ 長瀬真理先生の前回ご異議への御答：上の様な理由で L. Wittgenstein 先生との折合は、今のところ、「筋違えの俣」にさせて頂きたく存じます。御了承を乞います。

☆ S. P. Huntington 先生の御高見に力を得て、この際、ひとつ、思い切って **Japanese civilization** を取込んで創生を試みる！

先生に言わせれば、『文明の衝突は大変だ！』だけでは駄目。『衝突してガチャンと音をさせて、世界的秩序・構造を作り直し』て下さい。」

又、『日本文化は、孤立しているから大変だ！』ではなく、『比類無く、独特な文化・文明である。勇気を持って世界へ発信したら如何？』。云々と。

《アジア文化・日本文明から発信》

※D 実の所、「科学に於ける paradigm・専門科学に於ける哲学的部分」を内的及び外的に構造化する方法が判りません。ご教示戴けませんでしょうか。お願い申し上げます。

第一歩として、文化・文明の科学体系化（system 化）について、黒澤一清先生に御指導頂いた実態構造—機能分析法（S-F 分析）を使わせて戴く積り。

※E 斯くの如き、あやふやな研究課題（研究と言えるか？）こそ此の場で取り上げて戴き度存じております。

☆ 平田 周先生の comment: 此の点に関しニューズレター上で戴いた御講評に厚く御礼申し上げます。物理的理由で、月例に参加出来ないのが残念です。

☆ 藤原鎮男先生、平田周先生の comment: 「判り難い！」…唯々 申訳ありません。

① 十年来の思いを、一気に短時間内に盛込んだ為。

② 加えて、内容消化不良の為。

③ 更に加えて、修辞上の未熟さの為、不本意でありました。

御叱責有難う御座います。力を尽します。諸先生方におかれましても、及びませぬ処、ご指摘戴けます様お願い申し上げます。

※F 只、此の様な Adventure Research は個人仕業にして許されるのかもしれない。

何故ならば、確実に安心な信頼すべき既存登攀路を外れねばならない為である。

文化・文明に着目するのは、其れが超越的存在であると同時に、極めて内在的である点に在ります。 また、其処が此の視点の楽しい所でもあります。

※G 社会構造に於いて、科学は知識の構造的実現の様態であると観て、「新世紀への転換期」の意味を思考原点とし、時代的・社会的に期待される情報科学の脱構築を目指してみる。此处では哲学・倫理学・他の専門科学との交流が豊穡を招来すると感じている。

序でに言わせて頂けば、「今日的『哲学』では、何事によらず単純明快な答は有り得ない。」と思ひ知らされ続けて来ました。

故に科学屋としては、健全なる（と信じられる）経験主義の基に叩き台を試作して、世間の評価・承認を得る事 (Informed concept) が肝要か……の辺りで良し！と致し度く、専ら pragmatically に運びたき所存。

☆ 岩田修一先生 の comment : 「新提案が自律的に成長する迄に育てねば本物では無い。」…厳しい advice ! 有難く頂戴。

2. 本章（転章）での提案：情報知識“新”学を基調とした “Data Complex” の暫定仕様

※1 “Data Complex” : 新学思想に基く「発展型 Data Base」の仮称（名称提案）。

※2 今や DB は、Base という言葉では包含し切れない程 高次構造化・超高級機能化。

※3 言葉は“花”であります。そこで “Data Complex” “Information Complex” “知的複合体” 等など如何でしょうか？

1. 新学基本 paradigm…………「文化・文明」を基準面として専門科学を設営。
2. 新学体系の構造構築・解析の視座…………「S-F Scheme」（黒澤一清先生）適用。
3. 従来学に追加する新 Paradigm…………「アジア文化・日本文明」からの発信。

4. 新拡張 paradigm の特質……………欧米流と日亜流の「使い分け」(接着剤は使命観)。
5. 異文化加減乗除の目的……………「Clash に依る Remaking」(S.P.Huntington 先生)。
6. アジア・日本流視点の特徴……………欧米流 合理的視点の呪縛からの解放。
7. 新学俎上の料理素材……………発想支援型データベース (20 年来の主題)・

・ “ 発想支援型 DC ” … (DC=Data Complex)

8. 新世紀学術として期待される特質……………「使命誘導型(mission-oriented)」を採択。
 - ※1 19 世紀前半誕生の 近代・現代科学の特質は「好奇心駆動型」(村上陽一郎先生)。
 - ※2 現代科学の歪の例は 《 CUDOS ; R.Merton 》からの乖離など (村上陽一郎先生)。
 - ※3 現代科学者の価値観として例えば 《 PLACE ; J.Ziman 》など (村上陽一郎先生)。
 - ※4 使命観・価値観の『科学体系化』、即、『構造化』の方策として「S-F Scheme」を試用。
 - ※5 例えば、社会病理克服への理工学的寄与 など (最早、他人事では無く…)
 - ※6 新学創生の懐胎期の子育てに、古来、日本人は不慣れか。工夫必要。

9. 新科学誕生前の工夫……………” 観論創学 “(仮称) という視点を提唱。

: 先ずは、『各人の情報観・情報論』を照顧。……一人一流・百家百流！

- ※1 此の局面は、所謂「入力以前の問題」に深く関連。
- ※2 此の部分「情報哲学」と言う言葉で「体系繰込み」にするのは危険！
 (哲学側は、甘くない！ 真の哲学者は日常的な議論を許してくれない。
 (『我国』では、アリストテレスさんもウィトゲンシュタインさんも現実離れして科学道標としては歯が立たない。)

(向こう側では Aristotelés さんの “Metaphysics” も哲学者・科学者同士の共通話題。)

☆ 此処の所、平田 周先生、長瀬真理先生の御高見を拝受致し度 存知おります。

- ※3 此れに対して、『術育成学』(情報技術は新学を育成する)と言う新学創造の視点は勿論重要。
10. 今回、採用のアジア・日本流 Paradigm ……………特徴的学術発想の結界作り。
 - ※1 先ず、「欧米と『印中韓』の流れを汲む日本文化」で育てられた自分好み。
 - ※2 欧米流合理的分析法に対峙する総合志向解析法として「陰陽五行説」をしてみる。
 - ※3 陰陽五行的解析法として、「多重要因調和法： harmony」(仮称)とでも言うものを想定。
 (秦代の医師 和先生の原発想に示唆を得ているが、現代化・IT 化が課題。
 (古希臘に於いても、Socrates さん以前には是流の考えを抱いた人々も居たとの事。)
 - ※4 欧米流の「真か？ さもなくば、偽 か？」の見方に対峙して、「真か？ 偽か？ それとも真でもなく偽でもないか？」の見方を取入れてみる。(源流は印度発)
 - ※5 欧米流自然観に対峙して、隋天台智者大師の「止観」に沿って『発想支援論理』を構成してみる。自省してみますに、「どこことなく、身に馴染む風合い」……でも作成は難儀！
 色即是空では遠過ぎる。「空仮中の真実」の観点は科学上の自然観に適するとの結論に達して居る。又、此の見方は、L.Wittgenstein さんの “The world is all that is the case.” に通ずるとも思っている。

《 今回は、此処で中断させて頂きます。どうか、御批判の程宜しくお願い申し上げます。》